

この情報は、山武農業事務所のホームページでも公開しています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/sanbu/gyoumu/gijutsujohou.html>

稲作農家 各位

# 山武稲作情報 第5報(2019年7月11日発行)

山武農業事務所 改良普及課

電話 0475-54-0226

FAX 0475-52-7914

## 山武地域の生育状況

山武地域では日照不足及び低温により出穂が2～4日遅れる見込みで、4月下旬移植の「ふさおとめ」は7月16日頃、「コシヒカリ」は7月下旬の出穂が予想されます。今後の低温により冷害の危険があるため、天気予報を確認し、低温時には深水管理を行いましょう（「水稻の生育状況と当面の対策」参照）。また、いもち病が発生しているほ場もありますので、本紙裏面を参照し防除に努めましょう。

※低温危険期間：出穂前約15～10日

## 参考 生育調査ほの調査結果

### 【主食用米】

品種	場所	年	移植日	幼穂形成期	出穂期
ふさおとめ	山武市 (白幡)	2019	4/26	6/21	(7/16)
		2018	4/26	6/21	7/13
		平年値	4/27	6/18	7/12
ふさこがね	山武市 (成東)	2019	4/25	6/18	(7/17)
		2018	4/26	6/16	7/11
		平年値	4/26	6/17	7/12
コシヒカリ	東金市 (幸田)	2019	5/4	6/28	(7/25)
		2018	5/3	6/29	7/23
		平年値	4/25	6/26	7/21
コシヒカリ	山武市 (成東)	2019	4/25	6/24	(7/23)
		2018	4/26	6/23	7/17
		平年値	4/26	6/26	7/21
ふさのもち	山武市 (成東)	2019	5/9	7/2	(7/27)
		2018	5/10	7/2	7/22
		平年値	5/9	7/2	7/26

山武市（成東）のデータは県農林総合研究センター成東育成地に設置された調査ほのデータを引用。平年値は過去10年間（成東育成地のデータは8年間）の平均値。

### 【飼料用米】

品種	場所	年	移植日	幼穂形成期	出穂期
アキヒカリ	山武市	2019	4/25	6/15	7/9
夢あおば	山武市	2019	5/16	6/27	(7/29)

幼穂形成期は幼穂長1mm以上の稲が80%以上、出穂期はほ場の40～50%が出穂した日。出穂期欄の（）は今年度の推定日。

## 郵便で配信している方へお願い

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXへ切り替えを進めています。電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 尾形、E-mail: [nck-sanaec@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:nck-sanaec@mz.pref.chiba.lg.jp)、TEL:0475-54-0226

## これからの管理のポイント

### 〇いもち病の発生に注意してください

いもち病の感染に好適な条件は、気温 20～25℃、降雨や露によって長時間の湿潤状態が続く場合です。低温・多雨・日照不足が続く年には多発生が心配されます。窒素過多によっても発生が助長されるため、葉色が平年より濃い場合は注意が必要です。

止葉の上位葉に発生した葉いもち（写真）は、穂首、枝梗、もみ等に発生する穂いもちの伝染源となり、減収の原因となります。穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除し、さらに発生が続く場合は、天候等を考慮した上で穂揃期にも追加防除を行います。発生初期ほど農薬による防除効果が高いため、ほ場をよく観察し、適期防除に努めましょう。



写真 葉いもち病斑部  
(千葉県ホームページ参照)

	いもち病の主な防除薬剤	希釈倍数	10a 当たり 使用量	使用時期／使用回数
予 防 ・ 治 療	ダブルカットフロアブル <sup>1)2)</sup>	1000 倍	60～200L	穂揃期まで／2回
	ノンプラス <sup>2)3)</sup> 粉剤DL フロアブル	— 1000 倍	3～4kg 60～150L	収穫 7 日前まで／2回
	ブラシン <sup>3)</sup> 粉剤DL フロアブル	— 1000 倍	3～4kg 60～150L	収穫 7 日前まで／2回
治 療	カスミン液剤 <sup>1)</sup>	1000 倍	—	穂揃期まで／2回

注) 表中の次の薬剤は同一成分を含むため、総使用回数に注意する。

1) 「ダブルカットとカスミン（成分：カスガマイシン）」、2) 「ダブルカットとノンプラス（成分：トリシクラゾール）」、3) 「ノンプラスとブラシン（成分：フェリムゾン）」



～ミニコラム～  
こんなところに

**ICT**

Information and Communication Technology

～第5回～  
農業生産管理システムとは？

現在、スマートフォンやパソコン等を利用して、経営や栽培記録の管理・活用を行える多

様な生産管理システムが各社で開発、販売されています。これらを導入することで、①経営の無理や無駄の発見・最適化、②事務作業の軽減、③水稻経営における多数の圃場の効率的な管理等が期待されます。（下記の例は農林水産省「スマート農業技術カタログ」参照）

- インターネットサービスを利用し、圃場地図や農作業の記録を管理できるタイプ（例「アグリノート」ウォーターセル、「栽培ナビ」パナソニック etc.）
- 農業機械に搭載された通信機器と連携して、機械の稼働状況や圃場作業の記録等を管理できるタイプ（例「KSAS」クボタ、「スマートアシストリモート」ヤンマーアグリジャパン、「スマートファーマーズサポート」井関農機 etc.）
- 他社のサービスやリモートセンシングシステムと連携できるタイプ
- 料金は、無料のものから月額数百円～数千円等、機能によりさまざま

次回の情報は7月25日（木）に発行する予定です。